コナンの災難

紅葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
コナンの災難

【Ｎコード】
Ｎ０５１２Ａ

【作者名】
紅葉

【あらすじ】
博士の家に行った少年探偵団…。コナンが「ふっ」と工藤邸にある推理小説が読みたくなり…

家

学校が終わりコナン達は博士が作ったゲームをやるため、博士の家に向かっていた…。
「博士の新作のゲーム楽しみだね！」
「はい！！前のゲーム、面白かったですからね！今回のも期待できますね！！」
「そぅだな！」

他愛のない話をしているうちに博士の家に着き、歩美、光彦、元太はゲームを楽しそうにやりはじめた。
「コーヒー飲む？」
「おぅ」
灰原はキッチンへ向かいコナンは机に置いてあった雑誌をとって見ていた。が不意に「そーいえばこのごろ、俺の家にある推理小説の本、読んでねぇな。久々、あとで取りに行ってもって帰って読むか」と考えていた。
それが災難の始まりなんてコナンは知るよしもなかった。

数分後キッチンからジュースと珈琲を持った灰原がきた。
「はぃ。」
「サンキュー」

そして灰原は歩美達の方に行き「あなた達もジュース」と近くにおき、「ありがとー！」とお礼をいわれていた。そんなほほえましい姿をコナンは優しい眼差しでみていた。

「灰原、お前かわったな。」

「そぅかしら？」
「あぁ。優しくなったって言ぅか、素直になったって言ぅか…」
「かわった気はしないけど、もしかわれたのであれば、あの子達やあなたのおかげじゃないかしら」コナンはその言葉に驚いたが、優しく微笑んた。
「そうだったらうれしいけどな」
そんな話をしているうちにさっきの事を思いだした。
「そうだ。これ飲み終わったら、ちょっと俺ん家にいってくるわ」
「何か用事あるの？」
「ちょっとな。」
「そう。いってらっしゃい。」
「おぅ」
そして珈琲を飲み終えたコナンは、博士から鍵をもらぃ家に向かった。工藤邸の前、コナンは門を苦戦しながらあけ鍵を開けようとしたが、ドアがちょっと開いていた。一瞬にして探偵の空気になる
「誰かいるのか？母さんが帰ってきてるはずないし…泥棒か…？」
コナンはそんなことを思いつつ家に入ったが家の中はいつもと変わらなかった。
コナンは書斎に向かい歩いていると、書斎の方から『ガサガサ』という物音がしてきた。コナン
「蘭か？」
書斎に向かってまた歩きはじめ、書斎に入ってみたら男が一人机の中を丁寧にあさっていた。

この工藤邸は警備が万全で知り合いしか入れないはずなので、コナンは疑問に思いながら父さんに何かを頼まれ取りに来たの友人なのかと思っていた。

家（後書き）

国語がにがてで…。スイマセンm（_）m

事件（前書き）

お久しぶりです！二年たちましたが、映画をみてまた好きになりました！
今度こそ完結めざしているのでよろしくお願いします！

修正して話がすこしばかりかわりました。ご了承くださいm（__）m

事件

「誰？」
コナンの声に男は驚きコナンの方を見た。
「ぼうやこそ誰だ？」
「ここの家の親戚の子供。用があってきたんだ。」
「ふ～ん。ちょっとここにすんでる人に通帳と印鑑もってきてくれって頼まれたんだ。しらないかぃ？」
「しらない。」
コナンはそこでやっと友人ではないと気付いた。
「ちょっと電話してきいてくるね！」
男は一瞬焦った表情を見せた。男
「ちょっと待て！」
「なんで？」
「何処に電話するんだぃ？」
「どこって…家の人に聞いたほうがいぃでしょ？」
「・・・」
コナンは電話の方にむかいはじめた。すると男は裏ポケットからナイフを出しコナンの方へ歩いていく。「あぃつは口封じのため俺を殺すつもりなのか…」
コナンは後ろをちらっとみた。
男はコナンの後ろをついてきている。その片手にはナイフを持っている。隠してるつもりだろうが、コナンにはわかっていた。
麻酔針で眠らせたい所だが生憎修理中。靴も玄関にあり、少し不利な状況だっ。
そしてとうとうコナンが電話の前でとまると、男は急にコナンに向かってナイフを振り回し始めた。
運動神経と反射神経がいぃコナンは全部よけていたが、スリッパだと素足とちがってバランスが取りにくい。

そして一瞬バランスを崩してしまったコナンに向かって男はナイフを腹部に刺してきた。
「っ！！」男は一瞬ひるんだか、コナンの口を抑え声がでないようにしたまま抱き抱え家を飛びだし車の中でコナンを縛り走らせた。

コナンは身動きがとれないなか、必死に連絡をしようとしたができず、なすがままになっていた。

それから2時間経ち、帰ってこないコナンを心配して皆で見に行く事になった。

「江戸川くん」
「こなんくーん」
「コナーン」
返事がないが、本に夢中になっているときはいつもこうなので、あまり気にならなかったが、家全体を探してもいなかった。

「なんでいないのかしら」
「かえったんじゃないんでしょうか？」
「いいえ」
「コナンくんは、なにもいわず帰らないもん」
「そ、そうですよね！じゃあ何処いってしまったんでしょうか？」
「ねぇ、このスリッパ……血ついてない？」
灰原がちかづいて確認する
「血ね。…江戸川くんが誘拐されたわ。」
「えぇー」
「しかも、なにか怪我をしているはず。急がないとやばいかもしれないわ。早く警察に電話して」

「わ、わかった」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0512a/

コナンの災難

2010年10月19日03時17分発行